



神田慶也元学長を偲ぶ会

平成23年6月4日(土)、去る3月3日に逝去された本学第16代学長の神田慶也先生を偲ぶ会が、福岡市内のホテルにおいて行われました。

神田先生は、九州帝国大学理学部をご卒業後、昭和17年1月に助手となられ、以後約40年間にわたり助教、教授として、分子分光学、特に有機共役分子の電子状態に関する教育研究に尽力されました。また、理学部長、評議員等を歴任され、昭和53年11月からは、3年間にわたり九州大学長を務められました。学長在任中は、大学院総合理工学研究科の設置をはじめとする教育



研究組織の充実等に務められ、現在の九州大学の発展の礎を築かれました。偲ぶ会では、有川節夫総長、そして門下生を代表して島田良一名誉教授から

弔辞があり、讃美歌が流れる中、ご遺族をはじめ和田光史元総長・梶山千里前総長ほか参加者による献花が行われました。また、偲ぶ会に先立ち行われた追悼講演会では、神田先生の門下生ら4名による神田先生にちなんだ講演も行われました。会場には、神田先生の御写真やゆかりの品々が展示され、参加者は、在りし日の神田先生を偲びました。厳しい中にも慈しみの心を持たれ、後進の指導にあたられるとともに、九州大学の発展に御尽力いただいた神田先生にあらためて感謝を申し上げますとともに、先生のご冥福をお祈り申し上げます。



TOPICS

水素・燃料電池普及啓発施設が伊都キャンパスに完成しました

「水素キャンパス」と位置づけられる伊都キャンパスにおいて、水素社会実証研究の一環として設置された、「水素・燃料電池普及啓発施設」(通称:燃料電池足湯)が、平成23年3月末水素・燃料電池実証研究サイト内(水素ステーション東側)に完成しました。

本施設では、燃料電池で発電する際に生じる熱を利用したお湯を使い、実際に水素が暮らしに関わっているコージェネレーションの一例を足湯として身近に体験していただくことができます。



建材は、九州大学農学部林産学科・九州木材工業株式会社・福岡県工業技術センターとの産学官連携により研究開発された、耐久性をレベルアップするために保存処理技術を実施した木材(商品名:エコアコルウッド)を使用、デザインは、芸術工学研究院佐藤優教授監修の下で本学卒業生の阪根宏彦氏設計による木漏れ日の空間をイメージした造りとなっており、九州大学の技術・知見を集結して完成しました。

平成23年7月現在、この施設の利用については、原則毎週金曜日の16時~18時に行っています。(ただし、雨天等の場合により利用を中止することもあります。)